

地域活動団体の現状と課題についての アンケート調査結果報告書

2024年8月
地域しごとサポートセンター阪神
阪神北ランチ
阪神南ランチ

目次

1	調査概要	2
2	調査結果	3
2-1	団体	3
2-2	個人	8
3	子どもに関する事業を主な活動としている団体について	11
4	まとめ	15
5	参考資料 アンケート調査票	16
5-1	団体向け調査票	16
5-2	個人向け調査票	18

1 調査概要

(1) 目的

阪神地域においては、「地域社会の共同利益」の実現のため、地域の実情に応じた主体的な取り組みが進められていますが、少子高齢化が進むなか、生活様式や価値観の多様化、新しい地域課題の出現等をはじめ新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。そこで、「地域しごとサポートセンター阪神」では、子ども・子育て・青少年への支援についての地域における課題を把握するため調査を実施することにしました。調査結果から課題の解決に取り組む団体の創出や、支援につなげたいと考えています。

(2) 期間

2024年5月25日～6月28日

(3) 対象

- ① 阪神地域で活動する子ども・子育て・青少年に関わる団体
- ② 阪神地域に居住している子ども・子育て・青少年に関わる若しくは関わった経験のある個人

(4) 回答数

- ① 団体 52団体
- ② 個人 45人

2 調査結果

2-1 団体

(1) 主な活動エリア

エリア	件数
尼崎市	7
西宮市	28
芦屋市	3
伊丹市	0
川西市	1
宝塚市	10
三田市	0
猪名川町	1
その他（神戸市、姫路市）	2
合計	52

(2) 活動分野

活動分野	件数
保健・医療・福祉の増進	14
社会教育の推進	12
まちづくりの推進	17
観光の振興	1
学術・文化・芸術・スポーツの振興	9
環境の保全	3
災害救援	2
地域安全	9
人権の擁護・平和の推進	2
男女共同参画社会の形成の促進	5
子どもの健全育成	46
情報化社会の発展	4
職業能力の開発・雇用機会の拡充支援	3
消費者の保護	1
特定非営利活動促進法別表1～18に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡・助言・援助	2
その他（子ども食堂 3団体、食育 1団体）	4

(3) 活動概要

今回は「子ども・子育て・青少年に関わる団体」への調査のため、子ども食堂、学習支援、子育て支援などの活動をしている団体が多数を占めている。

活動内容	件数
子ども食堂	18
学習支援	9
子育て支援事業	9
世代間交流・地域交流	6
生涯スポーツ	4
学童保育	3
保育事業	3
つどい場カフェ	3
居場所づくり	3
環境学習・環境保全	3
障害児通所施設	3
就労支援	3
親子向けアートサロン	2

出前授業・市場見学誘致	2
介護職への理解	2
地域防災力向上支援	2
地域の子育て力向上のための人材育成	2

その他 1 件の内容

子ども会	情報提供
不登校・引きこもり	生活の質向上
親子が交流できる場所の運営	教材開発
ミュージカル教室	伝統遊び普及活動
社内福利厚生充実	保護者支援
自己実現のための個人指導	文化・歴史・芸術の講座
研修の提供	まちづくり
人間関係調整のサポート	フィールドワーク
家事サポート	

(4) 活動頻度

活動頻度については以下のとおりである。

活動頻度	件数	%
年 4 回	1	1.7%
年 2～5 回	1	1.7%
年数回	1	1.7%
年 1 回	1	1.7%
月 13 回	1	1.7%
月 10 回	1	1.7%
月 9 回	1	1.7%
月 2～3 回	8	13.3%
月 1 回	13	21.7%
週 13 回程度	1	1.7%
週 7 日（毎日）	10	16.7%
週 5～6 日	3	5.0%
週 6 日	1	1.7%
週 5 日	3	5.0%
週 2～3 回	2	3.3%
週 1 回（程度）	10	16.7%
随時、不定期	2	3.3%
合計※	60	100.0%

※合計数については複数回答されている団体があるため回答団体数と一致しません。

(5) 活動者数

「①スタッフ及びボランティア数」と「②利用者数」については、以下のとおりである。

① スタッフ及びボランティア数

人数	件数	%
10 人以下	25	48.1%
20 人以下	16	30.8%
30 人以下	3	5.8%
40 人以下	0	0.0%
50 人以下	0	0.0%
51 人以上	7	13.5%
不定	1	1.9%
合計	52	100.0%

② 利用者数

人数	件数	%
10 人以下	11	21.2%
20 人以下	10	19.2%
30 人以下	11	21.2%
40 人以下	1	1.9%
50 人以下	4	7.7%
100 人以下	10	19.2%
101 人以上	2	3.8%
不明	3	5.8%
合計	52	100.0%

(6) 運営上の課題

人材と運営費（資金）の不足を課題としてとらえている回答が突出して多くなっており団体が抱える大きな課題であると考えられる。

課題	件数
スタッフやボランティアの不足	24
運営費（資金）	18
集客	5
活動場所の確保	4
活動への理解	3
メンバーの固定化、高齢化	3
情報発信	3
子どもの預け先	2
食材の確保	2
活動の成果がとらえにくい	2
ICTの活用、DXの推進	2

その他1件の回答

備品の不足
運営時間が長い
関係機関との連携が困難
特になし
防災意識が低い

(7) 今後取り組みたい活動

不登校や学校に行きづらい子どもたちの居場所、子育て中の親や親子で交流できるような場づくりに取り組みたい団体が多くあった。同時に行った個人アンケートの結果からも多様な居場所のニーズが上がっている。

前記(6)の結果からスタッフやボランティアの人材不足やメンバーの高齢化が課題としてあげていることから事業の継続を不安視する団体が多かった。一方、講座や活動の拡充をあげる団体も同数あり活発に活動している団体があることが見受けられる。

活動内容	件数
子どもや高齢者など多様な主体の居場所	8
事業の継続	5
講座や活動の拡充	5
塾機能、学習支援、フリースクール	4
地域の祭り等のイベントの開催や協賛	3
特になし	3
食堂などの開催	3
子どもの発達や保護者支援	3
開催日を増やしたい	2
地域防災力向上支援事業	2
海外展開	2

その他1件の回答

組織単位の改編（地域⇒学校）	お手玉普及活動
スタッフの不足で不登校児への対応ができていない	中古衣料、生活用品、家具、おもちゃなどの回収
フードシェア事業	消費者教育
就労支援	自治体から委託を受けたいが受け方がわからない
子育て関連の要望を市や自治会の活動の際に伝える	地域活動への参加が仕事につながる仕組みを整えたい
中央卸売市場の認知度を高める	障害児のデイサービス
市の事業認定を受けること	保育所
より多くの学校での活動	認知度を高める
環境活動	検討中
未発表だが考えている	分からない

(8) その他自由記述

各団体に自由に記述をいただいたが、重複して資金不足の課題を上げている団体が多くあった。また、運営する上での課題を解決する方法を模索している団体が多いことから、このアンケートをきっかけにして地域しごとサポートセンターの利用を勧めていきたい。

スタッフの交通費や駐車場代、アルバイト代など団体の基礎体力を支えるような助成金が欲しい。
地域の自治会のご協力を得て自治会員の皆さまからご寄付を集めていただいておりますが、回覧をやめる自治会が増えてきており、今後、地域の方からのご寄付が集めにくくなると思われます。新しい事業を始めようにも、そのための人材が確保することが難しく、数年先まで活動できるのかもわかりません。
補助金に頼らない子ども・子育て支援事業の運営の仕方を模索しています。
地域の誰もが立ち寄れる場所でありたいと思うが、利用料だけでは運営が厳しく、どのような形の公費の委託事業があるのかもわからない。
貴重なアンケートを実施いただき、誠にありがとうございます。 実際に特定非営利活動法人を運営してみて感じるのは、「何をするにもお金がいる」ということです。 障害児通所支援事業を軸に進めることで、様々な課題が見えてきます。解決に向けて事業を進めようとする、常にぶつかるのは「お金」です。 今後、活動を進めていく上でご依頼したいこととしては、以下の2点です。 ・地域課題の解決に向けて活動を行う団体への公共施設利用の減免措置 ・助成金や補助金を有効に活用できるようなワンストップの相談窓口やポータルサイトの設置
私個人は認知症サポーター養成講座講師活動をしています
少子高齢化で一人一人の子どもに対して社会的な責任が大きくなるのが予想される世の中で地域でもっと子どもが大切にされるようにささやかながらも活動をしています。
当局が考える武庫川河川敷西宮側の使用制限は、当クラブにとり死活問題です。この施策にこれからどう対応するかが、現在の喫緊の課題です。
まだまだ分からない事だらけですが地域のこども達や高齢者の為になる事をしていきたい
交流センターが存続されてこそお手玉の会の活動も可能です。人形劇の「くぐつ座」さんと一緒にイベント活動することが多かったが、くぐつ座さんが活動を縮小されているのに伴い、お手玉の会も活動の場が減っています。独自で参加できるイベントを模索中。
近隣大学の学生、企業の社員向けの社会体験ボランティアプログラムによる業務提携をしてみたいですね。 活動の本質は、都市部に広がる素晴らしい自然環境に関わる体験をココロに刻んでもらうことで、西宮を住みたい街だと思ってもらうこと。
地域の小さな活動がもっと広まるようなしくみがあれば良いな、と思っています
現在行っている事業の見直しと新しい企画やアイデア提供して欲しい。
住民活動が原点にあり地域の課題解決に向けて設立した活動も継続する難しさを感じている
子ども達、子育て中の親子に必要なこと、求められていることをしていきたいが、やればやるほど運営が苦しくなる。という悩みは尽きません。
フリースクールの運営方法がわからない。社団法人にしたい。
事務所など無料で使えるスペースが欲しい
子育てや福利厚生も良いが、若年者が兵庫県に就職するように更なる施策を練ってほしい。
今回のアンケート結果を可能な範囲でお知らせいただきたいです。
ほかの食堂の運営や人員確保、どのような方が中心となってされているのかをしければと思います

「ボランティアをしたいけど責任は取りたくないとか、他人任せ、あるいは、したいけど何をどうしたらよいか分からない・・・」という方、また、誰かから言われないとできない「指示待ち人」がセルフスターターになる秘策?を考えないと、、、2025年問題もあり、高齢化しているボランティア人口は減るばかりかな?・・・中間支援の方、どうぞよろしく。
特にありません。
いつもありがとうございます
いつもお世話になっています。大変ありがたいです。
締切が過ぎていますが、回答します。

2-2 個人

(1) 居住地

エリア	件数
尼崎市	2
西宮市	20
芦屋市	0
伊丹市	4
川西市	0
宝塚市	15
三田市	1
猪名川町	0
その他（神戸市、明石市、豊中市）	3
合計	45

(2) 年代

年代	件数
20代	4
30代	6
40代	11
50代	13
60代	10
70代	1
合計	45

(3) 性別

性別	件数
男性	20
女性	24
回答しない	1
合計	45

(4) 職業

職業	件数
自営業	3
正規の職員・従業員（職員を含む）	23
会社等の役員	0
派遣社員	0
パート・アルバイト	7
地域活動やボランティア等の従事者	2
学生	0
専業主婦・専業主夫	6
無職	4

(5) 困っていること・必要なサービス

回答からは子どもの居場所や親の交流の場など、交流できる場が求められていることがわかった。次いで特になし、子ども食事の場（子ども食堂など）や預かってもらえる場所をあげる回答も多く、なにかしらの場所を求めている声が多かった。

困っていること・必要なサービスの内容	件数
子どもや親など多様な主体の居場所（自習や遊び場など含む）	24
特になし	7

子どもが（長期休暇中に昼食が）食べられる場所	5
子どもを預かってもらえる場所（朝、病気など）	3

その他 1 件の回答

保育料が高い	産前産後ケア施設の充実
部屋の片づけサービス又は費用免除	子どもや若者向けの Web 空間の親向けのサイト
寺子屋的な場所	子どもの見守りボランティア
短時間でも働ける場所	子どもたちの態度
ソーシャルワーカーの労働条件の改善	キッズトイレ
相談場所、支援の一覧表	行き過ぎた不審者情報（ひょうご防犯ネット）
商店街の客引きの取り締まり	

(6) 持っているスキル

個人のスキルは下記の表のとおり、様々なスキルを持つ人が多いことがわかった。スキルの内容を見ると、本アンケートの「スキル」を問う設問を、資格の有無ととらえたためか「特にない」が多く、回答については資格に関するものが多くなったのではないかと考えられる。

スキルの内容としては、「楽器の演奏」という技術や「教員」などの資格をあげる人が多い一方、「話を聞ける」「一緒に遊ぶ」など自分ができることの回答もあった。

スキルの内容	件数
特にない	9
楽器の演奏	6
教員	2
看護師	2
防災士	2
栄養士	2
FP2 級	2

その他 1 件の回答

サビ管	団体活動のサポート、
ガイドヘルパー	イベント立案、
自動車	ファシリテーター
ファイナンシャルプランナー	介護福祉士
助産師	DIY
リラクゼーションマッサージ	ボードゲーム
パソコン基礎	自然観察指導員
ベビーマッサージ	おもちゃインストラクター
ボランティア子育てひろばの運営者	公園管理運営士
ハワイアンフラ	一緒に遊ぶ
エステティシャン	野球
子ども食堂を運営	IT 全般
TOIEC710	環境管理士 2 級
保育士	ヘルパー 2 級
絵本講師	コミュニケーション能力
CPA トレーナー、講師	宅建士
保育教諭	工作
放課後児童支援員	商業簿記 2 級
編み物	人の話をじっくり聴ける
調理師免許	

(7) 自分でできること

回答には「見守り」や「小中学生の宿題や勉強を見ること」が突出して多く、その他も子どもに関わる内容が多かった。調査対象が子どもに関わる個人であり、積極的に子どもと関わっている結果とも見える。

「前記(6)の持っているスキル」や「本項(7)」の回答から、自身でできることを活かして子どもに関わりたいという思いも見えてくることから、団体が抱える課題解決に有益な人材資源ととらえることができる。

内容	件数
見守り	10
小中学生の宿題、勉強	10
特にない	4
子ども食堂、食事の提供、料理	4
本の読み聞かせ	4
昔遊び、一緒に遊ぶ	3
悩み相談、寄り添う、話を聴く	3
保育	2
子育てひろばの継続運営	2
部活動の指導	2

その他1件の回答

ボランティア活動	ボードゲーム
DXの推進	TOEIC540点
工作	楽器演奏

(8) その他自由記述

手をかけすぎるのは自立に反する。子どもは親の持ち物ではない。
子どもがのびのびと遊べる環境がどこかにあればいいと思います。
あれもダメ、これもだめと禁止ばかりの公園が目につきます。もっと伸び伸びと何でもできる公園があれば嬉しいです。
地域全体で子どもを見守ることが、自然にできている地域になれば、住みやすいと思います。
今後、農村部では農業の担い手不足が深刻となります。若者を含め多様な人材が担い手になれる環境づくりをお願いします。
地域活動への参加が現役世代は少ない。リタイア後の参加になりがちかもしれないが、子どもの時から参加できると何か変わるのではないのでしょうか？
いつも子ども会などで子どものこと、親の心配なども聞いてくださったりして嬉しく思っています。

3 子どもに関する事業を主な活動としている団体について

今回、「子ども・子育て・青少年に関わる団体」を対象に調査したが、活動概要の回答を見ると、子ども関係以外の活動をしている団体も子どもに関わる事業をしていることがわかった。そのため全 52 団体の中から子どもに関わる活動を主としている 30 団体を抽出し、改めて回答を分析することにした。

- ※1 活動内容については、活動概要を問う設問の記述回答から判断し項目を分類した
- ※2 スタッフ数、参加者数については、回答内容から 1 回あたりの人数に換算した
- ※3 課題については運営上の課題を問う設問の記述回答から判断し項目を分類した

(1) 子どもに関する事業を主な活動としている団体 (30 団体)

No.	活動内容※1	活動頻度	スタッフ数/回※2	参加者数/回※2	課題※3
1	放課後あそび場	週 13 回	6	55	資金不足/人材不足
2	放課後等デイ	毎日/週 7 回	5	30	広報
3	教育	毎日/週 7 回	3	5	人材不足
4	教育	毎日/週 7 回	1	10	広報
5	放課後等デイ	週 5~6 回	3	10	資金不足/場所
6	放課後等デイ	週 5~6 回	9	10	資金不足
7	学童	週 5~6 回	4	30	資金不足/人材不足
8	学童	週 5~6 回	3	15	人材不足
9	教育/保育・幼稚園	月 13 回以上/週 4 回	5	20	資金不足
10	交流の場	月 9~12 回/週 3 回	2	30	資金不足/人材不足
11	学習支援	月 9~12 回/週 3 回	6	15	IT/DX
12	子ども食堂	月 5~8 回/週 2 回	2	20	資金不足
13	子ども食堂	週 1 回/月 4 回	5	19	資金不足/場所
14	交流の場	週 1 回/月 4 回	3	10	資金不足/人材不足/広報
15	学習支援	週 1 回/月 4 回	8	25	人材不足
16	子ども食堂	月 2~3 回	10	40	資金不足/人材不足
17	子ども食堂	月 2~3 回	6	25	資金不足/人材不足
18	子ども食堂	月 2~3 回	3	15	場所
19	交流の場	月 2~3 回	6	10	人材不足
20	子ども食堂	月 1 回	8	20	広報
21	子ども食堂	月 1 回	8	50	人材不足
22	子ども食堂	月 1 回	8	20	資金不足
23	子ども食堂	月 1 回	10	60	広報
24	子ども食堂	月 1 回	2	24	資金不足
25	子ども食堂/学習支援	月 1 回	10	30	人材不足
26	子ども食堂/学習支援	月 1 回	6	10	資金不足
27	子ども食堂/地域活動	月 1 回	5	60	人材不足/広報
28	地域活動	月 1 回	49	35	人材不足
29	地域活動	月 1 回	17	50	人材不足
30	教育	月 1 回	4	30	その他

(2) 運営上の課題別分析

① 資金不足を上げた団体

抽出した 30 団体中 14 団体が資金不足を課題として上げている。その中でも子ども食堂を実施している団体が半数を占めている。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回
1	放課後あそび場	週 13 回	6	55
2	放課後等デイ	週 5~6 回	9	10
3	放課後等デイ	週 5~6 回	3	10
4	学童	週 5~6 回	4	30
5	教育保育/幼稚園	月 13 回以上/週 4 回	5	20
6	交流の場	月 9~12 回/週 3 回	2	30
7	子ども食堂	月 5~8 回/週 2 回	2	20
8	子ども食堂	週 1 回/月 4 回	5	19
9	交流の場	週 1 回/月 4 回	3	10
10	子ども食堂	月 2~3 回	10	40
11	子ども食堂	月 2~3 回	6	25
12	子ども食堂/学習支援	月 1 回	6	10
13	子ども食堂	月 1 回	8	20
14	子ども食堂	月 1 回	2	24

② 人材不足を上げた団体

①と同じく 30 団体中 14 団体が人材不足を課題として上げている。その中でも遊び場や学童など子どもの居場所となるような団体が多くなっている。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回
1	放課後あそび場	週 13 回	6	55
2	教育	毎日/週 7 回	3	5
3	学童	週 5~6 回	4	30
4	学童	週 5~6 回	3	15
5	交流の場	月 9~12 回/週 3 回	2	30
3	学習支援	週 1 回/月 4 回	8	25
7	交流の場	週 1 回/月 4 回	3	10
8	子ども食堂	月 2~3 回	10	40
9	子ども食堂	月 2~3 回	6	25
10	交流の場	月 2~3 回	6	10
11	子ども食堂/地域活動	月 1 回	5	60
12	子ども食堂	月 1 回	8	50
13	地域活動	月 1 回	17	50
14	子ども食堂/学習支援	月 1 回	10	30

③ 広報を上げた団体

30 団体中 6 団体が課題として上げている。課題として回答している団体数は少ないが、団体活動の広報は他の課題解決の糸口としても重要と考えられるので、積極的に地域ごとサポートセンターとして支援していきたい。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回
1	子ども食堂/地域活動	月 1 回	5	60
2	子ども食堂	月 1 回	10	60
3	放課後等デイ	毎日/週 7 回	5	30
4	子ども食堂	月 1 回	8	20
5	教育	毎日/週 7 回	1	10
6	交流の場	週 1 回/月 4 回	3	10

④ 場所を上げた団体

活動の場所を課題として上げた団体は以下の通りである。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回
1	子ども食堂	週1回/月4回	5	19
2	子ども食堂	月2~3回	3	15
3	放課後等デイ	週5~6回	3	10

⑤ IT・DX を上げた団体

IT・DX を上げた団体は1団体だけであったが、団体の課題解決において導入を勧めても良い団体は他にもあると思われる。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回
1	学習支援	月9~12回/週3回	6	15

(3) 活動内容別分析

① こども食堂

主に子ども食堂を行っている団体は、多くが資金不足を課題として上げており、資金調達に悩んでいる実態が見て取れる。一方で、1回あたりの参加者数が多い団体は人材不足を上げている。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回	課題
1	子ども食堂	月5~8回/週2回	2	20	資金不足
2	子ども食堂	週1回/月4回	5	19	資金不足/場所
3	子ども食堂	月2~3回	10	40	資金不足/人材不足
4	子ども食堂	月2~3回	6	25	資金不足/人材不足
5	子ども食堂	月2~3回	3	15	場所
6	子ども食堂/地域活動	月1回	5	60	人材不足/広報
7	子ども食堂	月1回	10	60	広報
8	子ども食堂	月1回	8	50	人材不足
9	子ども食堂/学習支援	月1回	10	30	人材不足
10	子ども食堂	月1回	2	24	資金不足
11	子ども食堂	月1回	8	20	広報
12	子ども食堂	月1回	8	20	資金不足
13	子ども食堂/学習支援	月1回	6	10	資金不足

② 放課後等児童デイサービス

放課後等児童デイサービス（放課後デイ）に関しては、団体ごとに抱える課題が違うため解決に向けて、どのような支援が必要か丁寧に聞いていきたい。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回	課題
1	放課後等デイ	毎日/週7回	5	30	広報
2	放課後等デイ	週5~6回	9	10	資金不足
3	放課後等デイ	週5~6回	3	10	資金不足/場所

③ 交流の場

交流の場の活動を行っている団体では、3 団体すべてが人材不足を課題としている。更に 2 団体は資金不足を上げている。この 3 団体の課題からわかるようにこのような場のニーズはあるものの資金源、人材の確保が難しいという運営上の問題点が見えてくる。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回	課題
1	交流の場	月 2~3 回	6	10	人材不足
2	交流の場	週 1 回/月 4	3	10	資金不足/人材不足/広報
3	交流の場	月 9~12 回/週 3 回	2	30	資金不足/人材不足

④ 学童・あそび場・教育・学習支援

学童や教育、学習支援を行っている団体の課題としては、人材不足が最も多くみられた。参加人数の多い事業では人手の不足は当然の課題として上がると思われる。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回	課題
1	放課後あそび場	週 13 回	6	55	資金不足/人材不足
2	教育	毎日/週 7 回	3	5	人材不足
3	教育	毎日/週 7 回	1	10	広報
4	学童	週 5~6 回	4	30	資金不足/人材不足
5	学童	週 5~6 回	3	15	人材不足
6	教育/保育・幼稚園	月 13 回以上/週 4 回	5	20	資金不足
7	学習支援	月 9~12 回/週 3 回	6	15	IT/DX
8	学習支援	週 1 回/月 4 回	8	25	人材不足
9	教育	月 1 回	4	30	その他

⑤ 地域活動

子どもの健全育成に特化した活動を行う地域団体は、他の地域活動団体にもみられるように団体運営に携わる人材不足の声が上がっている。

No.	活動内容	活動頻度	スタッフ数/回	参加者数/回	課題
1	子ども食堂/地域活動	月 1 回	5	60	人材不足/広報
2	地域活動	月 1 回	17	50	人材不足

4 まとめ

本調査は「阪神地域で活動する子ども・子育て・青少年に関わる団体」を対象に実施したが、前提として、必ずしも主たる事業が子ども等に関わらなければならないと限定したものではない。そのことから、主たる事業として高齢福祉サービスやその他の事業を実施しながら、その余力を活用して「子ども・子育て・青少年に関わる事業」を行う団体の多さが顕著に表れる結果となった。その事業のほとんどは子ども食堂や子どもの居場所などを実施しており、子どもに関する課題に手を差し伸べようと取り組んでいることがわかった。昨今の社会課題の流れを敏感に感じ取り、主たる事業とは異なるが新たな課題の解決に挑戦する団体の多さが浮き彫りとなった。

一方、主たる事業が「子ども・子育て・青少年に関わる団体」の課題は、「資金不足」「人材不足」とあげていることから、余力によって子どもに関する新たな課題解決に取り組もうとする団体は、財源や人材確保に成功しており、本来、主たる事業として「子ども・子育て・青少年に関わる事業」に取り組む団体には資金や人材が行き届いていないことがわかった。

個人については、多様な主体の居場所に協力したいというニーズが高くなっている。その各人が持つスキルやできることの回答から、まだまだ有益な人材資源がマッチングを果たせておらず、今後、ミスマッチング解消のため相談支援拡充に大いに期待できる結果となった。

今回の調査から、地域しごとサポートセンター阪神として、特にニーズとシーズのマッチング、また個人への起業支援や就業支援、職業紹介など支援できることが多く残されていることがわかった。ケースによっては行政や専門家などに繋ぎ、後押しできる団体・個人も見受けられたので、これから積極的な支援を行っていきたい。

5 参考資料 アンケート調査票

5-1 団体向け調査票

地域課題の現状把握についてのアンケート（団体向け）

地域しごとサポートセンター阪神

阪神南ランチ センター長 東 朋子

阪神北ランチ センター長 中山 光子

阪神地域においては、「地域社会の共同利益」の実現のため、地域の実情に応じた主体的な取り組みが進められていますが、少子高齢化が進むなか、生活様式や価値観の多様化、新しい地域課題の出現等をはじめ新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

そこで、「地域しごとサポートセンター阪神」では、子ども・子育て・青少年への支援についての地域における課題を把握するため調査を実施することにしました。調査結果から課題の解決に取り組む団体の創出や、支援につなげたいと考えています。

つきましては、最前線で活躍されている皆様が日ごろの活動の中で感じている課題についてお聞かせいただければ幸いです。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

「地域しごとサポートセンター阪神」は兵庫県からの補助を受けて、コミュニティ事業支援ネット・宝塚 NPO センター協同事業体が実施・運営する事業です。

「地域しごとサポートセンター阪神」は、以下の業務を阪神地域で行っています。

- ・ 地域課題及び支援を要する個人・団体にかかる調査
- ・ 地域課題解決に向けた相談・助言
- ・ 地域課題解決のための地域しごとの支援
- ・ 地域しごとに関する普及啓発
- ・ 地域しごとへの就労支援

なお、個人情報の取り扱いにつきましては、今回のアンケート調査の目的以外に使用することはありません。

アンケート締切 6月28日（金）

*** 必須の質問です**

メールアドレス*

- 1 貴団体名を教えてください*
- 2 電話番号*
- 3 主な活動対象エリアを教えてください*
 - ・ 尼崎市 ・ 西宮市

- ・ 芦屋市 ・ 伊丹市
- ・ 宝塚市 ・ 川西市
- ・ 三田市 ・ 猪名川町

4 活動分野について教えてください（複数回答可）*

- ・ 保健・医療・福祉の増進
- ・ 社会教育の推進
- ・ まちづくりの推進
- ・ 観光の振興
- ・ 農山漁村・中山間地域の振興
- ・ 学術・文化・芸術・スポーツの振興
- ・ 環境の保全
- ・ 災害救援
- ・ 地域安全
- ・ 人権の擁護・平和の推進
- ・ 国際協力
- ・ 男女共同参画社会の形成の促進
- ・ 子どもの健全育成
- ・ 情報化社会の発展
- ・ 科学技術の振興
- ・ 経済活動の活性化
- ・ 職業能力の開発・雇用機会の拡充支援
- ・ 消費者の保護
- ・ 特定非営利活動促進法別表 1～18 に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡・助言・援助
- ・ 特定非営利活動促進法別表 1～18 に掲げる活動に準ずる活動として都道府県または指定都市の条例指定の活動

5 活動概要を教えてください*

6 活動頻度を教えてください。（例：週 1 回など）*

7 活動者数を教えてください。（スタッフ・ボランティア数）*

8 利用者数を教えてください。（例 20 人/回）*

9 貴団体の運営上、課題となっていることを教えてください。*

10 今後取り組みたい事業や活動があれば教えてください。*

11 そのほか何かあれば自由に記述してください。

5-2 個人向け調査票

地域課題の現状把握についてのアンケート（個人向け）

地域しごとサポートセンター阪神

阪神南ランチ センター長 東 朋子

阪神北ランチ センター長 中山 光子

阪神地域においては、「地域社会の共同利益」の実現のため、地域の実情に応じた主体的な取り組みが進められていますが、少子高齢化が進むなか、生活様式や価値観の多様化、新しい地域課題の出現等をはじめ新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

そこで、「地域しごとサポートセンター阪神」では、子ども・子育て・青少年への支援についての地域における課題を把握するため調査を実施することにしました。調査結果から課題の解決に取り組む団体の創出や、支援につなげたいと考えています。

つきましては、取り組むべき地域における課題を見出すために、皆様が日ごろの生活の中で感じている課題を是非ともお聞かせください。

「地域しごとサポートセンター阪神」は兵庫県からの補助を受けて、コミュニティ事業支援ネット・宝塚 NPO センター協同事業体が実施・運営する事業です。

「地域しごとサポートセンター阪神」は、以下の業務を阪神地域で行っています。

- ・ 地域課題及び支援を要する個人・団体にかかる調査
- ・ 地域課題解決に向けた相談・助言
- ・ 地域課題解決のための地域しごとの支援
- ・ 地域しごとに関する普及啓発
- ・ 地域しごとへの就労支援

なお、個人情報取り扱いにつきましては、今回のアンケート調査の目的以外に使用することはありません。

アンケート締切 6月28日（金）

*** 必須の質問です**

メールアドレス*

1 お住まいについて*

- ・ 尼崎市 ・ 西宮市
- ・ 芦屋市 ・ 伊丹市
- ・ 宝塚市 ・ 川西市
- ・ 三田市 ・ 猪名川町
- ・ その他：

- 2 年代について*
- ・ 20代 ・ 30代
 - ・ 40代 ・ 50代
 - ・ 60代 ・ 70代
- 3 性別について*
- ・ 男性 ・ 女性 ・ 回答しない
- 4 職業等について（複数回答可）*
- ・ 自営業
 - ・ 正規の職員・従業員
 - ・ 会社等の役員
 - ・ 派遣社員
 - ・ パート・アルバイト
 - ・ 地域活動やボランティア等の従事者
 - ・ 学生
 - ・ 専業主婦・専業主夫
 - ・ 無職
 - ・ その他：
- 5 ご自身やご家族をはじめ、子ども・子育て・青少年に関することについて困っていることや必要だと考えるサービスなどがあれば教えてください。例えば・・・
- ・ 子どもが一人でも夕食を食べに行ける所があれば助かる。
 - ・ 子育ての相談をしたり、親同士の交流のできる場が欲しい。
- など、自由に記述してください。*
- 6 ご自身がお持ちのスキルを教えてください。
- 例えば・・・
- ・ 保育士（教員、調理師など）の資格を持っている。
 - ・ 楽器の演奏ができる。
- など、自由に記述してください。
- 7 ご自身でこんなことができると思うことがあれば記入ください。
- 例えば・・・
- ・ 小学生の宿題を見ることができる。
 - ・ 少人数の子どもの居場所の提供ができる。
 - ・ 通学路の見守り。
- など、自由に記述してください。*
- 8 その他に何かあれば自由に記述してください。